

(論文)

インフレーションについての覚書
—現在の物価論議で忘れられた論点について—

Memorandum on current inflation

小西 一雄

Konishi Kazuo

要旨

現在なぜ米欧は、そして日本は歴史的な物価高騰に見舞われているのであろうか。その根底にはコロナ不況期に実施された財政支出があり、それは中央銀行の事実上の引き受けによる国債増発を原資とした財政資金の散布であった。その後発生した全般的な物価高騰の基底には、財政資金の散布を通じた通貨価値の下落という典型的で古典的なインフレーションの進行がある。ところが現在行われているインフレ論議の大部分は、エネルギー価格や小麦価格などの国際的高騰、加えて日本では円安といった諸要因にだけ目を奪われて、この古典的なインフレの問題を看過している。このことは現状認識や経済見通しに、したがってまた政策スタンスに大きな歪みをもたらさざるをえない。本稿は、インフレーションとはなにかについての簡単な解説と若干の統計の検討をとおして、コロナ不況からの回復過程で生じている現下の物価騰貴の特徴を明らかにしている。